

# 大阪 ■ ■

# No.47 2015.1.31.

大阪哲学学校世話人会 Copyright©, 2015

# 哲学学校

【郵便振替】01170-1-81313  
【E-mail】oisp@mac.com  
【Home Page】<http://oisp.jimdo.com/>  
【代表者・編集者】平等 文博（代表世話人）  
【連絡先】

# ■ ■ 通信

657-0037 神戸市灘区備後町 5-3-1-1001  
平等気付  
電話 & FAX:078-856-2474

---

## 2015年を迎えて

平等 文博（代表世話人）

今年ほど、新年を迎える慶びや期待感に乏しい年もなかったのではないか。戦後最低の投票率での自民党圧勝という、年末選挙の結果も重く心にのしかかっている。選挙では争点化を避けながら、事が済めば案の定、集団的自衛権も原発再稼働もすべて選挙で信任されたのだと臆面もなく言い出す政府に、国民はいつまで黙って付き従っていくのだろうか。

今年、阪神淡路大震災から20年。当時、瓦礫の中を彷徨しながら、戦後50年の節目にまた敗戦直後のような街の惨状を体験しなければならぬのは、過去に決着をつけぬままの戦後の繁栄が虚飾でしかないことを、私たちに思い知らせるためではないのか、などとぼんやり考えたことを思い出す。そして、戦後70年の節目にしての安倍晋三内閣。今度は私たちは、瓦礫の街ではなく瓦礫の政治を体験させられることで、何をなすべきかの問いを突きつけられているのだろうか。

今年はまだ、オウム真理教による地下鉄サリン事件からの20年でもある。1月16日、逃

亡していた高橋克也を被告とする「地下鉄サリン事件を裁く最後の裁判」（朝日）が東京地裁で始まった。だが、この事件の真相は何も明らかになっておらず、この裁判でも究明されることはないだろう。なにしろ、主犯とされる麻原彰晃（松本智津夫）の裁判が第一審のみで、本人の精神崩壊状態にもかかわらず強引に死刑確定させられてしまったからである。

オウム事件とそれがもたらした日本社会の変質を執拗に問い続けているのが、映画監督でジャーナリストの森達也である。オウム信者の実態を内部から撮った映画（TV番組の撮影が途中で局から中止させられたため、自主制作映画に切り換えた）「A」と続編の「A2」、そして異例づくめのオウム裁判を論じた「A3」。

危機感が煽られると人間は集団に固まろうとし、内外に敵を探し作りだし、同調性と攻撃性を昂進させるが、その緊張がさらに危機感を募らせるという悪循環。それを止めるだけの力を人間は、私たちは、もつことができるのか。

ともかくにも、新しい年が始まった。

# 年頭に思うこと

井口 昇司（世話人）

去年（14年）の今頃、安倍政権の2年目を迎え、いよいよ反動の本格化を迎えるのではと危惧したものでした。

同時にアベノミクスは馬脚が顕わになるだろう。要は禁じ手の異次元金融緩和を行っただけ、人為的な円安で海外進出企業は円でのリターンが大きくなるが輸入物は当然値上がり、プラスマイナスゼロで所得の移転が起こるだけ、生産が増えるわけじゃない。マイナスの効いてくる庶民は反乱を起こすなんてことを期待しておりました。

危惧の実績は特定秘密保護法成立、集団的自衛権行使閣議決定、武器輸出三原則見直し等短期間に見事な実績を上げあつた出来。

期待の方は年末にGDPはマイナス、株価もドル建てでは対年始6パーセントの下落と見通しが当たり、年明けの通常国会は政権追求の年になるとほくそ笑んでおりました。

突然の年末解散総選挙。選挙の大義とか野党の不甲斐無さとかいろいろありますが、ま、狡猾くやったってことなんでしょう。

年末年始の株価は弱含み、選挙結果にかかわらず市場はアベノミクスには疑心暗鬼であります。値上げラッシュで物価は上がるんでしょうが2パーセントいくんでしょうか。いかなのは政権にとって問題、到達しても賃金が上がっていないければ問題。これらの場合政権の責任ということでタカ派路線の一時停止という期待もするんですが、本当に怖いのは物価上昇に歯止めがかからなくなること。インフレです。禁じ手に手を出したんだから当初から一部（大部？）で指摘されていたことが現実となる可能性が大きくなってきました。

「うまく立ち回らなくっちゃ」と考えるのは私が年金生活者だからでしょうか。

「希望は戦争」じゃないけど国家財政は借金棒引き、住宅ローンだってパーになっちゃうんだから元々持たない若者にはチャンス到来。弱肉強食ではなく実力主義の世の中が訪れる。

戦後と似てきますね（太平洋戦争です。この時だけか責任取ったんでしょうか。結果として旧体制は温存されたみたいですが、これも繰り返すかもしれない。喜劇として）。

1年経ってまた同じ繰り返す言を言うなんて私も年を取りましたね。もともと私にはこのような破滅願望があるのかもしれない。

そも経済的にうまくいけば○、ダメなら×と考えること自体どういうことなのか。

経済が（景気が）順調なら集団的自衛権はいいのか。

ばら撒きの恩恵に与れば政権党でいいのか。

誰も諾とはしないのにそう流れるという現実。

哲学学校はそういうことも考える場だと思のですが、平等先生。

共にあって中にいない----- なだいなだ

(2015.1.10)

# 『ドストエフスキー入門』 刊行

義積 弘幸（会員）

皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。

この度、私の『ドストエフスキー入門』が完成しました。拙文の集まりですが、私の処女冊子であり、また、私の57歳（9月29日）の記念碑です。みなさま、お忙しいと思いますが、ご一読していただければ幸いです。

さて、これを制作した「きらめきワーク出版部」は、NPO「かたくり」が母体の「丹波市障害者活動支援センター」の1階にあります。「就労支援B型」の施設です。そこで、名刺やチラシなどを印刷しています。今回は、私の冊子を最初から製本までしていただきました。私は、2階の居場所「希望の家」に所属し、毎日、通所していますが、今回、我らの「同志」に、この仕事を依頼しました。私の文章は拙いものですが、装丁はしっかりしていると思います。

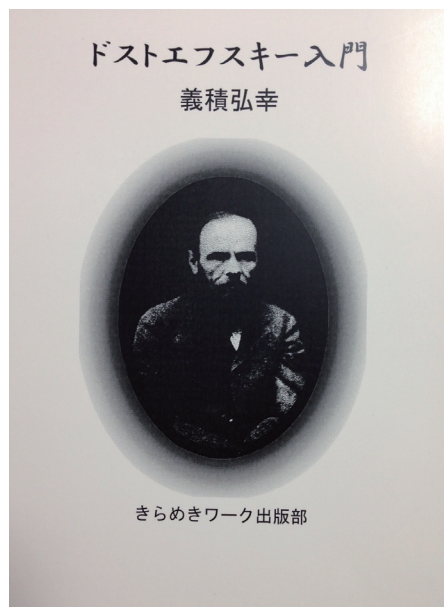
私は今日まで生きてみました  
時には、誰かの力を借りて  
時には誰かにしがみついて  
私は今日まで生きてみました  
そして今私は思っています  
これからも生きていこうと

（吉田拓郎）

私の人生は、こんな感じで、教員生活を7年で辞めたあと、1年の入院生活のあと、「木の根会作業所」（古い木造の建物）で、18年間の長い生活（主に、内職・時々、入院）を過ごしました。その後、丹波市の援助もあって、「丹波市障害者活動支援センター」に移りました。2階建てのコンクリートのしっかりした建物です。もう4年経ちました。私は、毎日、「希望の家」で、パ

ソコンに、好きな本の要約を打ち込んでいます。仲間は、将棋やおセロやトランプ、編み物、カラオケなどをしたり、TVを見たり、フリートークをしたり、のんびりと過ごしています。「ひきこもり」防止の施設と聞いていいでしょうか。『入門』に入れたエッセイは家で書いたものですが、私は、このような雰囲気は好きです。「自由人」ですから。

『ドストエフスキー入門』は、ドラマ『白痴』（DVD）を見たことが、きっかけでした。それから、ドストエフスキーの小説を読んで、エッセイを書くようになりました。大学時代を思い出して。案外、記憶に残っているものだと思います。その違いも、わかりました。また、新たに思い出したこともありました。ここで書いたエッセイは、引用の多いダラダラした文章ですが、私の子供達でするので、お忙しいですが、よろしくお願い致します。



## 〈知の歴史〉入門講座

# 「スピノザ入門」(4回シリーズ)

【企画者より】1月7日にフランスで起きた連続テロは、多くの犠牲者をだし世界に衝撃を与えました。この事件で浮かび上がったのは、人間と市民社会と国家の関係、政治と宗教の関係、言論の自由と宗教の自由の関係などです。このことは、現在に限ったことではありません。まさにスピノザ(1632-1677)の生きた17世紀のオランダもそうでした(世界で最初の市民革命はイギリスでなくオランダでした。市民社会が最も早く成熟したのもオランダです)。スピノザはまさしく、これらの問題に真摯に向き合い思索した哲学者・思想家なのです。

本講座で取り上げられる彼の三大著作『エチカ』『神学政治論』『政治論』は、それら諸問題との知的な格闘の産物であり、今に生きる私たちにも大いなる意義と有効性を与えてくれるに違いありません。ただこの意義と有効性は、スピノザへの政治的思い込みや一方的な解釈によって見出すべきものではないでしょう。そうではなく、様々な人々のスピノザ把握を視野に入れつつ、しかも彼の哲学・思想の内在的解釈にもとづいて、多面的に捉えることが大切であると考え、本講座を企画しました。(藤田隆正)

### ●第1回「スピノザの時代と生涯」

1月31日(土) 1時半から5時 大阪経済大学

講師・平尾昌宏さん(立命館大学非常勤講師/哲学)

著書:『哲学するための哲学入門—シェリング「自由論」を読む』(萌書房)

### ●第2回「スピノザ『神学政治論』を読む」

2月14日(土) 1時半から5時 尼崎市立中央地区会館

講師・上野 修さん(大阪大学大学院教授/哲学)

著書:スピノザ『神学政治論』を読む(ちくま学芸文庫)

### ●第3回「スピノザと現代」

3月14日(土) 1時半から5時 尼崎市立中央地区会館

講師・河村 厚さん(関西大学教員/政治心理学)

著書:『存在・感情・政治—スピノザへの政治心理学的接近』(関西大学出版部)

### 第4回「スピノザとその主著『エチカ』

—スピノザの「神即自然」を基礎にした人間の在り方」

3月28日 1時半から5時 尼崎市立中央地区会館

講師・河井徳治さん(大阪産業大学名誉教授/哲学)

著書:『スピノザ「エチカ」』(晃洋書房)

『スピノザ哲学論攷—自然の生命的統一について』(創文社)

# 三つの主題で

橋本 直樹（会員）

## 1 浄土真宗から唯物論へ

昨年（2013年）の大阪哲学学校での融通念仏宗についての研究発表をさらに掘り下げて、今年中に一冊の本にまとめたいと考えている私は、今のところ、その本の主題の一つとなる浄土宗ならびに浄土真宗への批判のために、その研究発表では取り上げられなかった、あの歎異抄を読んでいるところだが、それを読んで痛感するのは、浄土宗の開祖である法然を批判した明恵を私が支持して、菩提心、すなわち悟りを求める心を放棄した仏教は、もはや仏教ではない、などといくら主張しても、在家の私たちが、出家した僧侶と同じような修行をすることなく悟りを得ることが、果たして可能なのだろうか、という疑問である。

しかし、だからといって、私たちは悟りを諦めて阿弥陀如来による救いを求めるしかない、ということはないはずである。少なくとも、融通念仏宗を支持する私の立場から言えば、かつてその開祖である良忍の前に現れた阿弥陀如来が説いたという融通念仏によって、在家の私たちでも悟りを得ることは可能なのである。

それにしても、歎異抄の中でも特に有名な「善人なおもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。」という一文は、実は親鸞が、彼の師である法然の言葉を引用したものであった、という説を紹介したNHKの番組をもとにした、NHK出版の本を、私は最近入手したが、そのことから浄土宗と浄土真宗とのつながりは明らかであり、浄土宗と浄土真宗をひとまとめにして論じることの根拠も、そうした事実にあるといえるだろう。

そのいわゆる悪人正機説も含めて、法然や親

鸞の場合、良忍のように阿弥陀如来が彼らの前に現れて、彼らの主張の元になるような教えを説いた、ということではなく、彼らはいくまでも仏教の経典や高僧の著作を研究した末にそうした結論に達したようだが、そんな彼らの教えに従って、阿弥陀如来による救いだけを信じ、「南無阿弥陀仏」と唱え続けた人々は、本当に極楽往生できたのだろうか。

現在、日本の仏教宗派の中で最も多くの信者を有し、おそらく古来よりそうだったであろう浄土真宗と浄土宗の信者の多くが、実はその死後、極楽ではなく地獄に堕ちていたとしたら、彼らの祟りによって、浄土真宗あるいは浄土宗という教団はおそらく壊滅に追い込まれていたに違いない。

しかし実際には、浄土真宗や浄土宗は現在に至るまでその勢力を維持している。これこそ、親鸞や法然の教えが正しいことの証しであり、彼らが皆その教え通りに極楽往生している証拠にほかならない。浄土宗や浄土真宗の信者はおそらくそう主張することだろう。だがその事実は、別の解釈によって説明することもできる。それは、地獄という世界が脱獄不可能な刑務所のようなところであって、一度そこに入った者は二度とそこから出られない、だからその真相が未だに暴露されていないのだ、という解釈である。

しかしさらに第三の、より現実的な解釈も成り立つ。それは「死人に口なし」、つまり人は死んだらそこで全てが終わるのであって、死後の世界が生前に信じられていたものとは違っていても、そのことを逆恨みするどころか、そのことを誰かに告げることも、いや、そのことにつ

いて考えることさえできない、だからからこそ、そうはならないのだ、という解釈であり、その背景にあるのは唯物論という考えである。

法然や親鸞はもちろん、そんなことは全く考えていなかっただろう。しかし、彼らの教えを受け継ぎながら教団を拡大あるいは維持してきた僧たちの中には、そうした考えを持ち、法然や親鸞の教えをあくまでも方便として説いていた者がいたかも知れない。というより、そんな人物は一人もいなかった、という証拠はどこにもない。つまり、浄土宗や浄土真宗のように広義の世界観を持たない、ある意味で偏狭な仏教宗派は、その偏狭さゆえに、いわば「偽装された唯物論」とみなすことさえできるのである。仏教本来の教えからはもとより、法然や親鸞の教えからも大きくかけ離れたそんな考えをも受け入れる、浄土宗や浄土真宗、特に浄土真宗の教義が、現代にも通じると言われる根拠は、そうしたところにあるのかも知れない。

## 2 日蓮宗と融通念仏宗

日蓮宗といえば、浄土真宗や真言宗などと共に日本仏教を代表する一大宗派だが、その日蓮宗と融通念仏宗とを比較することには無理があると思われるかも知れない。天台系ともいべき日蓮宗と、浄土系の融通念仏宗という系統の違いや、両者の教団の規模の違いを差し置いても、日蓮宗と融通念仏宗とではあまりにも違い過ぎて比較にならないのではないかと。

しかし浄土系の宗派とはそもそも、日本の天台宗の総本山である比叡山の高僧、円仁や源信らに端を発する、いわば天台宗の分派であり、融通念仏宗の開祖である良忍もそうした高僧の一人であって、融通念仏宗が華嚴経などと共にその拠り所としている経典は法華経であり、それは天台宗の根本経典でもある。そして日蓮宗の開祖である日蓮は比叡山で修行しており、のちに彼が確立した日蓮宗の教義でも、その根本

経典は天台宗と同じく法華経とされている。

その天台宗を日本仏教の正統派として、キリスト教の正統派であるカトリックに例えれば、そのカトリックを批判して宗教改革の立役者となったルターに相当する人物ともいべき日蓮は、その法華経を徹底的に研究して他家中国の天台宗の教義を確立し、その実質的な開祖となった天台大師の著作を研究し、法華経からその形式と内容の二つの核心、すなわちその形式における核心としての題目「南無妙法蓮華経」と、その内容における核心としての一念三千を見出だしたが、前者は、その題目を唱えれば誰でも成仏できる、とすることで、教団拡大への道を開き、後者は、釈迦の悟りをありのままに書き記したといわれながら、文学的で冗長な法華経の内容を、天台大師に由来し、日蓮がその主著である開目抄や観心本尊抄で説いた、一念三千という真理によって総括することで、天台宗のように、密教すなわち法華経以外の経典や神仏を受け入れて、その教義を多元化させた結果、教団を弱体化させたりすることなく、日蓮宗の教義を統一し、教団の結束を固める基礎とした。

その一念三千という概念は、共に「一念」という言葉を使っていることからいっても、日蓮宗における究極の真理を意味することからいっても、明らかに融通念仏宗における十界一念という真理に通じている。さらに突き詰めていえば、後者は前者を「三千」から「十界」へといわば簡略化したものになっている。

といっても、それは結果的にそうなっているだけであって、前者は日蓮が法然や親鸞と同様に高僧の著作を研究した結果として導き出した真理であり、それに対して後者は、良忍の前に現れた阿弥陀如来が彼に説いた真理である。いずれにせよ、その一念三千を究極の真理とする日蓮宗に対しては、浄土宗や浄土真宗に対しての「広義の世界観を持たない」という批判は当たらないだろう。

また、日蓮宗には大曼陀羅という、紙に「南

無妙法蓮華經」を中心として神仏を示す文字が書かれただけの本尊があるが、密教の曼陀羅に相当するこうした本尊は融通念仏宗にもあって、十一尊天得如来というその本尊は、阿弥陀如来と十人の菩薩たちを菜迎図の形式で描いた画像である。このように、その教義の中心が類似していることや、共に独自の本尊を奉じていることなどにおいて、日蓮宗と融通念仏宗には共通点もあるが、それ以外の点ではやはり、両者は大きく異なっており、特に日蓮宗の、他の仏教宗派を否定するという排他性や、当世は末法の世であるとする歴史観、そして日本という国を重視する国家主義は、融通念仏宗には全く見られない特徴であり、ある意味でそれらは批判の対象ともなり得る。

しかし裏を返せば、それは日蓮宗の教団としての積極性を示すものであって、そのような特徴が見られないということは、それだけ融通念仏宗が教団として消極的である、ということになる。長い歴史と深遠な教義、そして中立的な教団を持つ融通念仏宗が、日蓮宗のようにその教団を拡大できなかつたのは、そのためかも知れない。

### 3 「エロイーズとアベラール」から 「ヒルデガルドとベルナル」へ —もうひとつの往復書簡—

私は、あの大ベストセラー『ソフィーの世界』を読んだことがきっかけで、その本が出版された1990年代の後半から、あるテーマに基づいた一連の人物列伝のようなものを書き始め、それは現在もなお継続中である。かつては「季報唯物論研究」に掲載されたこともあるその連作のテーマとは、私が「女流哲学者」と呼んでいる、架空、実在を問わず何らかの思想や信条を持っていた過去の女性たちを紹介しながら、彼女たちの多くが何らかの関わりを持っていた男性の哲学者たちによる、いわゆる哲学史の裏

側、あるいは女流哲学者の系譜とでも言えるようなものを、古代から現代に至るまで追求していく、というもので、今のところ、それらを全体としてどういう形で発表するかについては未定だが、そのタイトルは「哲学史の裏側—女流哲学者の系譜—」とする予定である。

その中でも、中世の有名な修道士アベラールと修道女エロイーズとの恋愛を取り上げた「エロイーズとアベラール」という一文は、実は才女でもあったエロイーズを、その女流哲学者の系譜に加えるという主題も、スコラ哲学の初期の代表者として、いわゆる12世紀ルネサンスを代表する人物でもあったという、アベラールの学者としての業績も掘り下げることができず、結局は研究書というより軽い読み物に近い内容になってしまったが、実はさらに、彼らの恋愛の周辺にも、修道士と修道女との興味深い関わりがあったことが、のちに分かった。それが、アベラールに代表されるスコラ哲学の対極に位置する、いわゆる修道院神学の代表者であり、しかも彼よりはるかに高い地位にあった修道士ベルナルと、最近になってようやく正当に評価されるようになった、中世のルネサンス人ともいべき修道女ヒルデガルドとの関わりである。

このことについては、先日の大阪哲学学校での私の研究発表でも取り上げたが、それは決して恋愛関係などというものではなく、たった一度だけ手紙を交わしたに過ぎない。たとえ彼らがその後、親交を結んだとしても、きわめて禁欲的な両者の関係は、プラトニックなものにかなり得なかつたはずである。

それはともかく、有名なアベラールとエロイーズの往復書簡に対して、知られざるもう一つの往復書簡ともいべき、そのヒルデガルドとベルナルの往復書簡は、恋人同士ではなく、同時代に活躍した二人の偉大な人物の間で交わされた手紙として、また、ヒルデガルドの多方面にわたる活動の源泉となった、彼女の驚異的な

ヴィジョン、すなわち幻視の世界が、ベルナルに代表されるキリスト教の正統な信仰に則ったものとして認められるきっかけとなった手紙として、スピノザとライブニッツ、ルソーとヴォルテール、フィヒテとシェリング、マルクスとエンゲルス、ハイデガーとヤスパースなどの往

復書簡と並ぶ、思想史的に意義深いものといえるだろう。

そうしたことも含めて、私は女流哲学者の系譜に、「ヒルデガルドとベルナル」と題する、軽い読み物というよりは研究書に近い内容の一文を加えるつもりである。

2015 大阪哲学学校 校催し案内

〈知の歴史〉入門シリーズ

# スピノザ講座

内容決定!

日時: 日 1時 - 1時半 15時 - 17時

第1回 1月31日(土)  
平尾昌宏さん  
(立命館大学ほか非常勤講師)  
著書「哲学するための哲学入門」  
「スピノザの時代と生涯」

第2回 2月14日(土)  
上野修さん  
(大阪大学教授)  
著書「スピノザ『神学政治論』を読む」他  
「スピノザ『神学・政治論』入門」

第3回 3月14日(土)  
河村厚さん  
(関西大学教授)  
著書「存在・感情・政治—  
スピノザへの政治心理学的接近」  
「スピノザと現代」

第4回 3月28日(土)  
河井徳治さん  
(大阪産業大学名誉教授)  
著書「スピノザ『エチカ』」「スピノザ哲学論攷」  
「スピノザ『エチカ』入門」

1月7日にフランスで起きた連続テロは、多くの犠牲者をだし世界に衝撃を与えました。この事件で浮かび上がったのは、人間と市民社会と国家の関係、政治と宗教の関係、言論の自由と宗教の自由の関係などです。このことは、現在に限ったことではありません。まさにスピノザ(1632-1677)の生きた17世紀のオランダもそうでした(世界で最初の市民革命はイギリスでなくオランダでした。市民社会が最も早く成熟したのもオランダです)。スピノザはまさしく、これらの問題に真摯に向き合い思索した哲学者・思想家なのです。本講座で取り上げられる彼の三大著作『エチカ』『神学政治論』『政治論』は、それら諸問題との知的な格闘の産物であり、今に生きる私たちにも大いに意義と有効性を与えてくれるに違いありません。

ただこの意義と有効性は、スピノザへの政治的思い込みや一方的な解釈によって見出すべきものではないでしょう。そうではなく、様々な人々のスピノザ把握を視野に入れつつ、しかも彼の哲学・思想の内在的解釈にもとづいて、多面的に捉えることが大切であると考える、本講座を企画しました。

大阪哲学学校

連絡先: TEL/FAX: 078-856-2474 (平号)  
oisp@mac.com

■場所  
尼崎市長  
中央地区会館 (第2回以降)

▼参加費: 各千円  
(学生や社会生活の方等は  
お申し込みがあれば五百円)

■交通  
名神高速  
(阪神尼崎駅下車)  
駅の南をほぼ直線に沿って西へ神戸方面  
へ向かって徒歩10分。  
外務省が地上のゲートを開いた  
大きな会館です。

至新橋  
至大阪  
至尼崎

大阪哲学学校

注目のスピノザを体験しよう!

## 大阪哲学学校入会案内

大阪哲学学校は1986年に「生活と哲学の接点」となることをめざして開校した、市民による開かれた自主的な文化運動団体です。思想信条を問わず、対話と学びを望む方であればどなたでもご参加いただけます。哲学学校を維持するために、会員になっていただける方を随時募集しています。年会費は千円で毎年1月に更新です。会員には、企画を提案したり世話人になって会の運営にたずさわることができるほか、ホームページの会員専用ページから催しの配付資料(毎回分ではありません)をダウンロードできるなどの特典があります。会員登録は、催し会場受付にてお申し出いただくか、メール(oisp@mac.com)でご連絡ください。



## ホームページの掲示版より

哲学学校ホームページ (<http://oisp.jimdo.com>) の掲示版には、いろいろな興味深い書き込みがなされていますが、会員の中にもご存じない方が多いと思いますので、最近のやり取りの一部をここに紹介します。会員でなくても閲覧・書き込みができます。掲示版にどうぞご参加ください。

義積弘幸 (2015.1.15. 15:46)

先日、パリで、イスラム教の預言者・ムハンマドに対する風刺画を何度も掲載する新聞社に対するイスラム過激派によるテロ行為がありました。私は、それに対する自分の考えをfacebookに書きました。援用したのは、『内ゲバの論理—テロリズムとは何か』(三一書房)所収の「目的は手段を浄化するか」でした。埴谷は、その中で、平野謙の「ひとつの反指定」を引用し、結論として「手段そのものから逆に実現さるべき目的自身が検討されねばならないのだ」(平野の文章から引用)と言っています。

つまり、イスラム過激派のテロ(手段)を「ムハンマドの風刺画掲載をやめさせる」(目的)ことに利用してはいけない。換言すれば「手段をえらばず、目的を実行する」ことを批判しているのだと思いました。換言すれば「目的は手段を浄化できない」と言っているのだと思いました。どんな崇高な「目的」も誤った「手段」によっては「浄化できない」のです。これでは簡単すぎて言葉足らずですが、埴谷に言わせれば、そうなるでしょう。つまり、今回の「目的と手段」の問題は批判されねばならないのです。

しかし、テロを受けた側も「他者の気持ち」(これは、信仰の問題ですから)も多少は汲まなければいけないでしょう。しかし、その新聞社は、これまでの方針を変えようとしていない。また、ムハンマドに対する風刺画を掲載するようです。ここにコミュニケーションは成り立っていない。風刺画を描くことは「表現の自由」という金科玉条をもって。もちろん、私は、どんな「目的」があろうともテロ(手段)を肯定するつもりは

ありませんが、相手の嫌がる(預言者の風刺)ことを再びするというのも、どうかと思います。

フランスでは、「エスプリ」というすばらしい言葉があります。風刺画は、それに値するかもしれない。しかし、エスプリとは、相手の嫌がること(預言者をもてあそぶ)まで踏み込むことでしょうか。こう書くと何か新聞社の風刺画掲載に反対して、「表現の自由」を否定しているように感じられるかもしれませんが、私は改めてテロ(手段)は否定すると言っておきます。

さらに悲しいことは、このイスラム過激派のテロによって、敬謙なイスラム教徒までが、テロリストに組する人々と思われてしまうことです。「過ぎたるは及ばざるが如し」、過激でありすぎることはするべきではない?と思います。さらにテロに対して武力で対抗しようとすることはいけないと思います。仕返しにすぎないから。それでは、何をすべきかということになりますが、それに答えることは、私の力量を越えていると思いますので、問題点を「目的と手段」の問題を提示することだけにとどめたいと思います。

KSASAGE (2015.1.15. 22:47)

イスラム過激派によって殺された人々を追悼して、パリその他で大規模デモが行われた。人々は口々に、「わたしはシャルリ」と語り、そしてプラカードをかかげた。

なんと360万人のデモだそう。表現の自由「言論の自由」を守れという。「自由のために一切の妥協を廃して戦う」ともいう。

このデモを仕掛けたのは、オランダ大統領（社会党）である。しかし、主催者も、デモ参加者も、報道するメディアにも、ウサンクサイところが無いわけではない。

『シャルリ・アブド』は、フランスの風刺週刊誌である。これまで執拗にムハマドとイスラム教を攻撃してきた。ムハマドがおしりを突き出している（肛門がこちら側を向いている）風刺画も掲載している。

同紙編集部は、かねてより、同紙の挑発に反応したイスラム過激派から批判され、放火されたこともある。同紙はそうした双方の抗争関係のなかで、過激派の狂信的暴力行使の可能性を百も承知の上で、戦ってきたわけである。そして今回、イスラム勢力は、攻撃をエスカレートさせた。

わたしのまわりには、「自業自得だ」と言うひともいる。言葉と絵の暴力と正味の暴力には、違いがあるが、しかし大枠において、同じ水準での相互行為でしかないとも言える。

周囲の迷惑にならないように、奴らだけで争っておればヨカッタのだが、彼ら双方にとってそうはいかなかったというわけだ。

KSASAGE (2015.1.15. 23:09)

『シャルリ・アブド』は、「リベラル」ではない。「ラディカル」である。イエス・キリストとキリスト教についても、攻撃的風刺画を書いているようだ。同紙の傾向は左翼であり、どうやら無神論であるようだ。

無神論というのは、積極的な反宗教であって、無信仰ではない。宗教を攻撃する立場なのだ。9・11事件以後、イギリスでは無神論的言説が盛んになっているが、フランスでもそうらしい。（多神教的で、多重信仰が支配的な日本では、そもそも無神論というものはない。無神論は、一神教とセットになって存在する。）

同紙の編集者には、「自分たちは絶対に正しい」という確信（「宗教は誤謬であり、愚昧であり、

本質的には人間社会から除去されるべきだ」という確信）があり、そこから出発し、それを根拠に、面白おかしく、イスラム教を批判してみせてきた。

（イスラム過激派も、『シャルリ・アブド』も、そしてパリのデモ参加者も、自分たちは絶対に正しい正義をもっていると思っている。本心は分からないが、しかし、絶対的な正義を信じているくかのように振る舞っている。そして自分たちの行動を正当化している。）三者とも、一神教的なハードな信仰にはまり込んでいるのではないのか。『シャルリ・アブド』とパリのデモ参加者は、啓蒙的な理性への絶対的信仰だ。）

しかし、この週刊紙を単純に、無神論という一つの立場に立った思想的で、信念に基づくメディアだとして特徴づけることができるだろうか。必ずしもそうではない。

福島原発事故があったとき、この週刊紙は、三本の腕と三本の脚をもった関取が相撲をしている風刺画を掲載した。放射能による奇形を漫画化して、面白がったのだ。これは「風刺」とは言えない。日本のメディアは、このことを取り上げ、批判したのをわたしは記憶している。

いいかげんな週刊誌なのだ。イスラム教攻撃の動機にもそういうところがあるのではないか。愉快犯的な動機、売り上げ（これは『週刊朝日』の橋下批判と同じ）、「正義」（無神論的正義）の濫用もたらす自己満足・優越願望の充足。

パリでデモをした人々をはじめ、「わたしはシャルリ」と語り、この言葉をプラカードに書き付けた人たち。まあ、何か良いことをしているつもりであろうが、愚かな人々である。

「表現の自由は絶対的だ」

自由に絶対はない。

「自由のために一切の妥協を廃して戦う」

本気か。狂気か。（本気でも狂気でもあるまい）

「表現の自由は絶対的だ」

ならばヘイトスピーチを規制する法律を撤廃せよ。

「表現の自由は絶対的だ」  
デモに参加したメルケル首相（キリスト教民主・  
社会同盟）よ、ならば、『わが闘争』の発行禁止  
処分を解除せよ。

KSASAGE (2015.1.15. 23:27)

わたしはこの週刊紙にも、パリのデモをした  
人々にも、同調できない。絶対的な神も、絶対  
的な自由も、存在しないからだ。

今回のテロ事件は、われわれ日本人は関係な  
い。これは、かれらの争い、彼らの問題なのだ。

ハンチントンの理論からすると、これは「西  
欧文明」と「イスラム文明」との衝突である。  
どちらの文明にも属さず、外部に位置するわれ  
われは、距離をおくべきである。（ハンチント  
ン（『文明の衝突』集英社）は、アメリカは他の  
文明と他の文明との抗争にかかわるべきでない  
と言っているが、これはむしろ、アメリカ以外  
の国、日本にもあてはまる。ちなみに、このハ  
ンチントンの考え方は、アメリカによる世界の  
一極支配の否定論である。）

00 (2015.1.16. 19:15)

「西洋文化」と「イスラム文明」の衝突なら、  
日本の大学生がイスラム国への参加しようとし  
た「事実」はどうなるんでしょう。西洋文化へ  
の嫌悪？イスラム文明と日本の親近感？

どちらにしろ事実を無視するなら歴史の修正  
と変わらない様な気がします。  
無知が横槍を失礼します。

KSASAGE (2015.1.16. 22:59)

一般にひろく言われているように、1990年  
代から世界的な「宗教復興」現象が生じていて、  
各地で原理主義勢力が台頭しています。その中  
から過激派が出てきているわけです。

ジル・ケペル『宗教の復讐』（1992年）は、  
原題は『神の復讐』ですが、この「宗教復興」  
現象を取り上げています。

この「宗教復興」のなかで、今、イスラム教  
徒の人口が増えています。1つには、イスラム  
教との出生率が高いということですが、しかし、  
他教徒のイスラムへの改宗もかなり多くなっ  
ています。（もともとイスラム地域であったところ  
でも、信仰がよりディープになってきています。  
トルコやエジプトでも、かぶり物をする女性が  
昔より増えていますね。）

アメリカのキリスト教徒のなかにもイスラム  
教に改宗する人がいます。モハメド・アリもそ  
うですね。

動機はさまざまでしょう。信仰上の動機があ  
るひともいるかも知れませんが、それとは別に、  
アメリカ社会への反発とか、中東でビジネスを  
しやすいようにとい利害からとか、あるいは、  
暴れる機会をこの宗教が提供してくれるからと  
いう動機からの人がいるでしょう。

> 「西洋文化」と「イスラム文明」の衝突なら、  
> 日本の大学生がイスラム国への参加しよう  
とした「事実」はどうなるんでしょう。

おっしゃることの意味がよく分かりませんが、  
これは外部から見れば、世界的なイスラムの台  
頭の一部ということになるでしょう。

日本人でも、イスラム教へ改宗する人がいる  
わけです。信仰上の動機、配偶者との関係、ビ  
ジネスがらみもありますし、研究調査がしやすい  
から改宗したという人もいます。「自分探し」か  
ら改宗するひともいる。

今回の人は「暴れる」機会をイスラムに求め  
たということでしょうか。どうして日本の国粋  
右翼へ行かなかったのか、と思いますがね。「暴  
れ」の度合いが低いからでしょうか。

00 (2015.1.16. 23:25)

私は日蓮宗ですが、日蓮の教えはわかりませ  
ん。それは、ただ存在するだけで、中身を伴っ  
ていないという感覚です。指導者は政治的に経

済的に宗教を使っているとは思いますが、何千もの兵士、それもアルバイトの感覚招集されてゆく兵士に「宗教的な理由」を教え込み、「洗脳」し、実際に「テロをさせる」という高度な教唆が短期間で行えるとは思えません。愛国心を元に戦争を起こしても、「人を殺す」という倫理観の前では人間は銃を意識的に反らせるのですから。

私には「テロに憧れる」。「世界の崩壊に憧れる」病理のようなものが世界中に蔓延しているように思えます。

「なんのためかはわからないけれど、世界の崩壊を迎えるため」に世界中の人間が欲望し突き進んでいるのではないのでしょうか。

ネット右翼は「右翼的」ではなく、社会を攻撃し「戦争を賛美」します。それは、「戦争が世界を破壊する」からであり、彼らの根本は破壊を求める心なのです。

過去の思想を当てはめるだけでは、彼らの行動は計れないと思っています。

KSASAGE (2015.1.16. 23:33)

「宗教復興」現象というのも一面の真理でしかありません。アメリカでは、そしてひょっとするとイスラム諸国でも、同時に他方では、強烈に世俗化（脱宗教）の力が働いています。宗教復興と脱宗教の、たがいに矛盾しあう力が、同時に働いている現実があるようです。これは、大変なストレスを社会にもたらします。

ポーリー・トインビーは、9/11事件の時、『ガーディアン』紙上で、「良い宗教は死にかけの宗教だ」と言いました。彼女はむろん、無神論者です。

イギリスでも、フランスでも、アメリカでも、宗教復興と脱宗教（世俗化）の両方の力がぶつかり合っている。今回のテロの加害者と被害者がそうでしょう。彼らは、宗教復興の先頭に立つ人々と脱宗教（世俗化）の先頭に立つ人々です。そして、ともに歴史の解釈も、歴史の本体もラ  
大阪哲学学校通信 No47

ディカルに修正しようとしています。

別にハンチントンを持ち出さなくても、「文明」や「文明の衝突」の概念を持ちださなくても、如何様にも、幾通りにも説明可能な現象です。

KSASAGE (2015.1.16. 23:43)

>私は日蓮宗ですが、日蓮の教えはわかりません。

>それは、ただ存在するだけで、中身を伴っていないという感覚です。

おっしゃることの意味がよく分からないですが、法華経、日蓮の教え、いずれも学ぶ価値があるように思います。たとえば、宮沢賢治のようにね。

創価学会は、日蓮のことを「大聖人」と言っていますが、どこまで日蓮に学んでいるか疑問です。

高根英博 (2015.1.18. 11:29)

Facebook 投稿分。

NHK BS の番組。

衝撃のドキュメントだ。

イスラム国がアメリカの武器を使って空爆する欧米を排撃する！捕虜の大量虐殺の映像は、南京大虐殺と同じ。そして、この番組はオバマの軍事介入を誘っている。

ドキュメント番組自体も狂暴。

平和な足元を揺るがす、こわい。(高根)

「イスラム国はなぜ台頭したのか」(再)

2015年1月5日 月曜深夜 [火曜午前0時00分～0時50分]

1月17日 土曜 午前9時00分～9時50分

2月17日 火曜深夜 [水曜午前0時00分～0時50分]

原題：The Rise of ISIS

制作：WGBH (アメリカ 2014年)